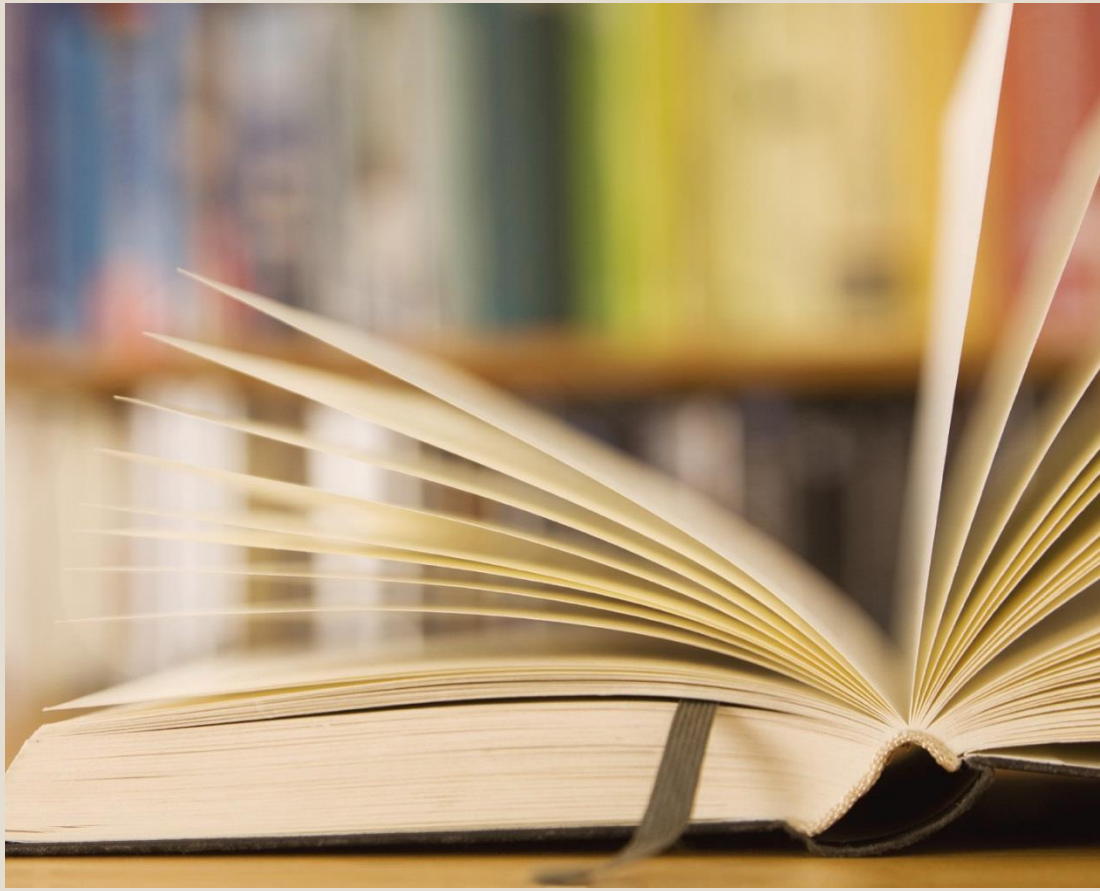
全国保育・幼児教育施設の絵本・本環境実態調査の結果と今後の研究計画について

高橋翠（発達保育実践政策学センター・特任助教）



子どもにとっての絵本・本の意味

子どもの発達に資するもの（機能性）

a. 言語発達
- 言語音、語彙、文法等の獲得
- リテラシーの基盤形成

b. 社会性・情緒的発達
- “感情にまつわるリテラシー”の獲得

c. 読書への意欲・関心
- 就学前の読書習慣
  →それ以降の読書習慣へ

子どもの権利としての絵本・本環境

乳幼児保育・教育の質の重要性

- 保育・幼児教育の投資効果に関する議論と政策
- 保育・幼児教育施設の急増・利用児童数増加
- 育ちの場としての重要性の高まり（低年齢・長時間化）

保育・幼児教育の質の観点の一つとしての絵本・本環境

異なる施設形態を対象に、全国規模で実態調査を実施

1. 小中学校と比べて冊数・予算が少ない
2. 施設による格差が大きい（新設園・小規模園）
3. 保育者の約半数は蔵書・予算を十分と認識
4. 絵本購入のための補助金を提供している自治体は少ない
5. 近隣施設（主として図書館）もまた、乳幼児の絵本・本環境を支える役割を果たしている

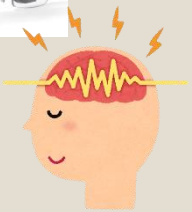
＜今後の共同研究の展開＞

【調査研究】
園・クラスと家庭の実態

- ✓ クラスにおける実践・取り組み
- ✓ 家庭の絵本・本環境および読み聞かせ

【実験研究】
絵本とデジタルメディア

- ✓ 経験・体験の違い
- ✓ 発達に対する効果のあり方における差異



【事例研究】
実践事例の収集と絵本の意味探究

- ✓ 国内外の優れた実践事例の収集
- ✓ 絵本・本の価値や意味およびそれらの歴史的変遷に関する文献調査

☆絵本・本を含む子どもにとってのマルチメディア環境のあり方について、異分野融合・実証科学的研究を、共同で展開していく

発表概要

1. 調査の背景

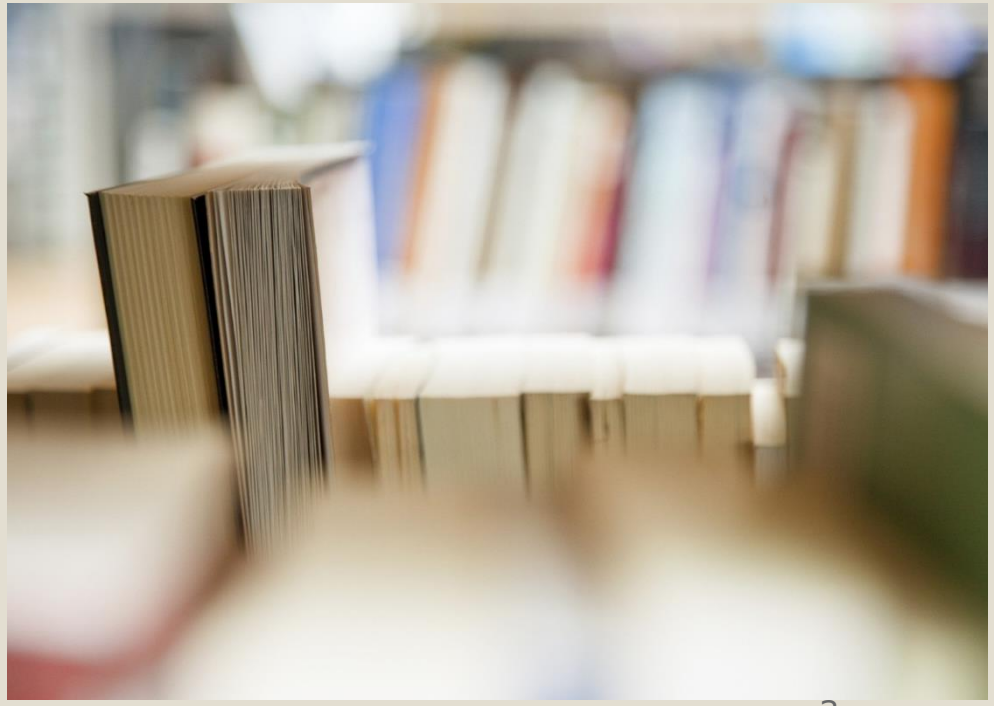
① 絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
② 保育に関する世界的な動向と我が国の実態
③ 保育・幼児教育における絵本・本の位置づけ

2. 調査結果の報告

① アンケートの構成、対象となった施設、回収率
② 調査結果のポイント
③ 実践・政策への示唆

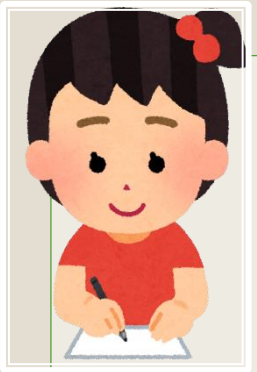
3. 今後の展望

① 調査研究
② 実験研究
③ 事例研究



１． 調査の背景：①絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究

- **子どもにとって絵本・本は、子どもの育ち・発達に資するものである（機能性）**



a. 言語発達

- 言語音、語彙、文法等の獲得
- リテラシーの基盤形成

b. 社会性・情緒的発達

- “感情にまつわるリテラシー”の獲得

c. 読書への意欲・関心

- 就学前の読書習慣
  →それ以降の読書習慣へ

１． 調査の背景：①絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
「絵本・本を読むこと」は子どもの権利である

- 絵本・本へのアクセス、読む本を選ぶこと、読むために支援を受けることを基本的人権として捉えようとする運動が行われている（例えば、International Literacy Association, 2018）
- そこでは、教育・発達に対する意義に加えて<u>読むことそれ自体を楽しむことの重要性</u>も明記されている

1. 子供は、読む基本的な人権を有しています。
2. 子供は、印刷またはデジタル形式の文書にアクセスする権利を有しています。
3. 子供は、何を読むか選ぶ権利を有しています。
4. 子供は、自分たちの経験や言語を反映する文書を読む権利を有し、他者の人生への窓を開き、我々の多様な世界へのドアを開く権利を有しています。
5. 子供は、楽しみのために読む権利を有しています。
6. 子供は、知識と読み書き能力を持った識字パートナーとの協力的な読書環境を持つ権利を有しています。
7. 子供は、読む他にも十分な時間を持つ権利を持っています。
8. 子供は、読むことによって学んだことをローカルまたはグローバルに他者と共有する権利を有しています。
9. 子供は、読むことを書く、話す、および視覚的に表現するなどの他の形式のコミュニケーションのきっかけする権利を有しています。
10. 子供は、官公庁および、読み書き指導を支援する組織から経済的および物質的な援助を受ける権利を有しています。

１． 調査の背景：②保育に関する世界的な動向と我が国の実態

保育・幼児教育の重要性に対する世界的な注目

- 保育・幼児教育への投資効果に関する議論
- 幼児教育の無償化（日本）

子どもの「育ちの場」としての就学前施設の役割の増大

- 保育・幼児教育施設の急増
- 施設利用児童数の増加
- 施設利用の低年齢化・長時間化

保育・幼児教育の「質」の議論へ

１． 調査の背景：②絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
保育・幼児教育の重要性に対する世界的な注目

- 幼児教育の無償化（2019年10月～）
  - 少子化対策としての幼児教育無償化
    - 我が国では就学前施設への就園率は高いものの、保護者の費用負担が重いことが指摘されてきたことから
  - 就学前教育へのアクセスの保障も意図した政策でもある
    - 幼児教育・高等教育無償化の制度の具体化に向けた方針　（平成30年12月28日関係閣僚合意）において、「**幼児教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培うもの**であり、**子供たちに質の高い幼児教育の機会を保障することは極めて重要**である」ことが指摘されている

１． 調査の背景：②絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究

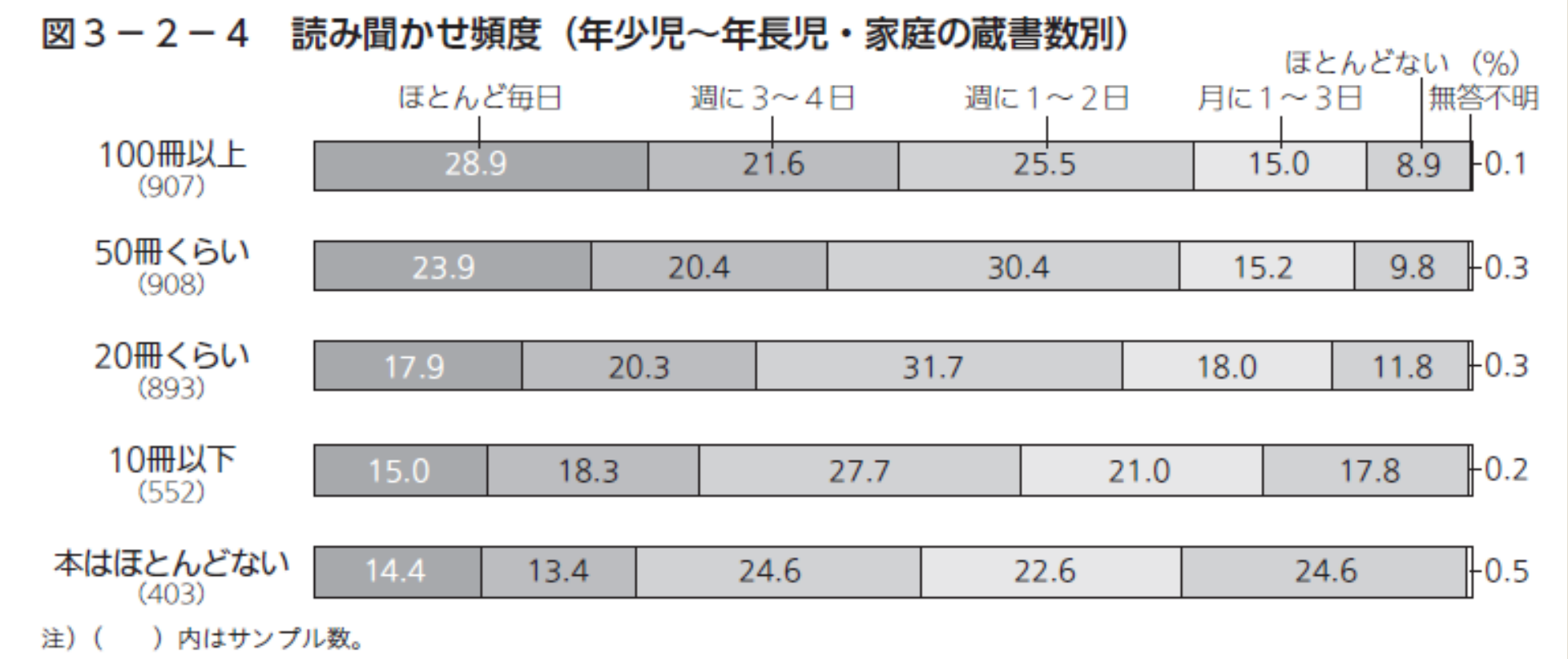
- 我が国の保育・幼児教育の実態と課題
  1. 保育施設の急増
  2. 就学前の教育・保育施設の利用児童数の増加
  3. 保育・幼児教育施設の利用時間の長時間化

- より多くの保育・幼児教育施設で、より多くの子どもたちが、より長く過ごすようになっている

➡**子どもの「育ちの場」としての重要性が増大している**と考えられる

１． 調査の背景：②絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
子どもの「育ちの場」としての就学前施設の役割の増大

- 家庭での絵本・本環境は二極化していると考えられる（20冊以下の家庭が約5割）
- 保育・幼児教育施設は子どもの絵本・本へのアクセスを保障する重要な役割を担っている



幼児期から小学1年生の家庭教育調査　報告書 [2012年]より

１． 調査の背景：②絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
保育・幼児教育における絵本・本の位置づけ

- 幼児教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領（およびそれらの解説）における位置づけ
  - **「言葉」の領域の中で、絵本・本に親しむ環境を通じて言葉や情緒を養うことが奨励されている**

- **保育・幼児教育の質の議論を行う上で、絵本・本環境はその観点の一つを構成する**ことを示す

１． 調査の背景：②絵本・本と子どもの育ち・発達に関する先行研究
保育・幼児教育における絵本・本の位置づけ

- **保育・幼児教育施設における絵本・本環境の実態については全国調査に基づく実証データ不在**

⇔義務教育段階の施設における絵本・本環境の実態

- 全国学校図書館協議会(2019)
  - 調査時期：2019年6月
  - 調査対象：全国の小・中・高校から都道府県ごとに３％無作為抽出
  - 回答校数および回収率：小学校279校（43.9%）／中学校155校（46.1%）
  - **蔵書数：小学校では10,335冊、中学校では11,579冊**
  - **年間予算：平均49.8万円、中学校では58.7万円**

参照値として重要

２． 調査結果の報告：
①アンケートの構成、対象となった施設、回収率

- 実施時期：2019年10月上旬～10月31日
- 実施方法：ポプラ社DMにアンケートを同封
  - 保育・幼児教育施設33,566園（施設）
    - 幼稚園9,733：国立51、公立3,730、私立5,952
      （令和元年度総数　10,070（国立49、公立3,483、私立6,538）
    - 認可保育所22,981：公立8,780、私立14,701
      （平成31年度 23,573；保育所型認定こども園の保育所部分を含む）
    - 認証保育所852：私立852

    ※なお、今回の調査では回答方法による施設の特定を避けるため、
    施設の属性（公立・私立, 公営・民営）を尋ねる項目は設けなかった
- 回答方法：
  - FAXでCedepに返送、またはCedepのウェブサイト上で入力・回答を行った

☆設問1～16 にご記入の上，回答を FAX にてご送信賜れますと幸いです。

FAX 送信先：03-6748-8244 ［東京大学 Cedep 調査用］

➡インターネットからもご回答いただけます。右の QR コード，又は URL http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/17343/よりお願いします。

※本調査において『絵本』に含まれるもの：一般的な絵本，布絵本，児童書，図鑑，子ども向け月刊誌（子どもが共同利用するもの）／『絵本』に含まないもの：紙芝居，デジタル絵本，子ども向け月刊誌

1. 施設形態について教えてください。（どれか1つに○）

A	認可保育所	B	幼稚園	C	認定こども園	D	小規模保育所
E	地方単独保育施設（認証保育所等）					F	企業主導型保育所
G	その他の認可外保育施設（　　）					H	その他（　　）

2. 園で所有している，『絵本』のおおよその冊数を教えてください。（どれか1つに○）

A	50 冊未満	B	50～100 冊未満	C	100 冊～300 冊未満
D	300～500 冊未満	E	500～1000 冊未満	F	1000 冊～1500 冊未満
G	1500冊～2000 冊未満	H	2000冊以上（約　　冊）		

3. 1年間の『絵本』の平均購入予算を教えてください。（どれか1つに○）

A	1 万円未満	B	1～5 万円未満	C	5～10 万円未満
D	10～20 万円未満	E	20～30 万円未満	F	30 万円以上

4. 園でお子さんが使用する『絵本』の購入にあたって，保護者の費用負担はありますか。

A	いいえ	B	はい➡（年額　　円）または（月額　　円）

5. 過去 1 年間に以下から『絵本（古本含）』の寄贈はありましたか。（該当選択肢全て○）

A	職員	B	保護者	C	図書館	D	自治体	E	その他（　　）

6. 園の所在する市町村・都道府県に『絵本』を購入するための補助金等はありますか。

A	ない	B	ある ➡ 昨年度の補助金額（　　円）

7. 園の近隣地域に『絵本』を借りる場所はあり，活用していますか。（どれか1つに○）

A	頻繁に活用している	B	時々活用している
C	そうした場所はあるが，特に利用していない	D	そうした場所はない

8. 7で A もしくは B とした方：それはどのような場所ですか。（該当するもの全てに○）

A	図書館	B	学校（小・中学校，高校，大学等）	C	保育・幼児教育施設
D	子育て支援関連施設	E	その他公共施設	F	その他（　　）

9. 園における『絵本』の蔵書数は，十分だと思いますか。（どれか1つに○）

A	そう思う	B	ややそう思う	C	あまりそう思わない	D	そう思わない

10. 今年度の『絵本』の購入予算は，十分だと思いますか。（どれか1つに○）

A	そう思う	B	ややそう思う	C	あまりそう思わない	D	そう思わない

11. どのようなときに，『絵本』を購入しますか。（該当するもの全てに○）

A	定期的に ➡（a. 月に一度，b. 3 カ月に一度，c. 半年に一度，d. 年に一度）		
B	保育者から希望が出たとき	C	管理職から希望が出たとき
D	子どもから希望が出たとき	E	保護者から希望が出たとき
F	その他（　　）		

12. 『絵本』の購入方法を教えてください。（該当するもの全てに○）

A	書店に園関係者が出向いて購入	B	書店に電話や FAX, e-mail で発注
C	インターネット通販で購入	D	絵本専門の業者から購入
E	遊具や備品等を扱う業者から購入	F	出版社に直接連絡して購入
G	その他（　　）		

13. 購入する『絵本』は，どなたが選んでいますか。（該当するもの全てに○）

A	園長・副園長	B	主任	C	保育者
D	保護者	E	学識経験者	F	絵本専門士
G	子ども	H	図書館司書	I	その他（　　）

14. 『絵本』の購入に関して課題や困り事として認識していることがあれば教えてください。

15. 『絵本』にまつわる環境の整備に関して，園で独自に取り組んでいることはありますか。

16. 差し支えなければ，以下の情報を教えてください。※園の特定等には使用しません

園児数	（　　名）	設立年	（　　年）	都道府県	（　　）

２． 調査結果の報告：
①アンケートの構成、対象となった施設、回収率

- 回収率：回収率3.1%（計1,042園／送付33,566園）

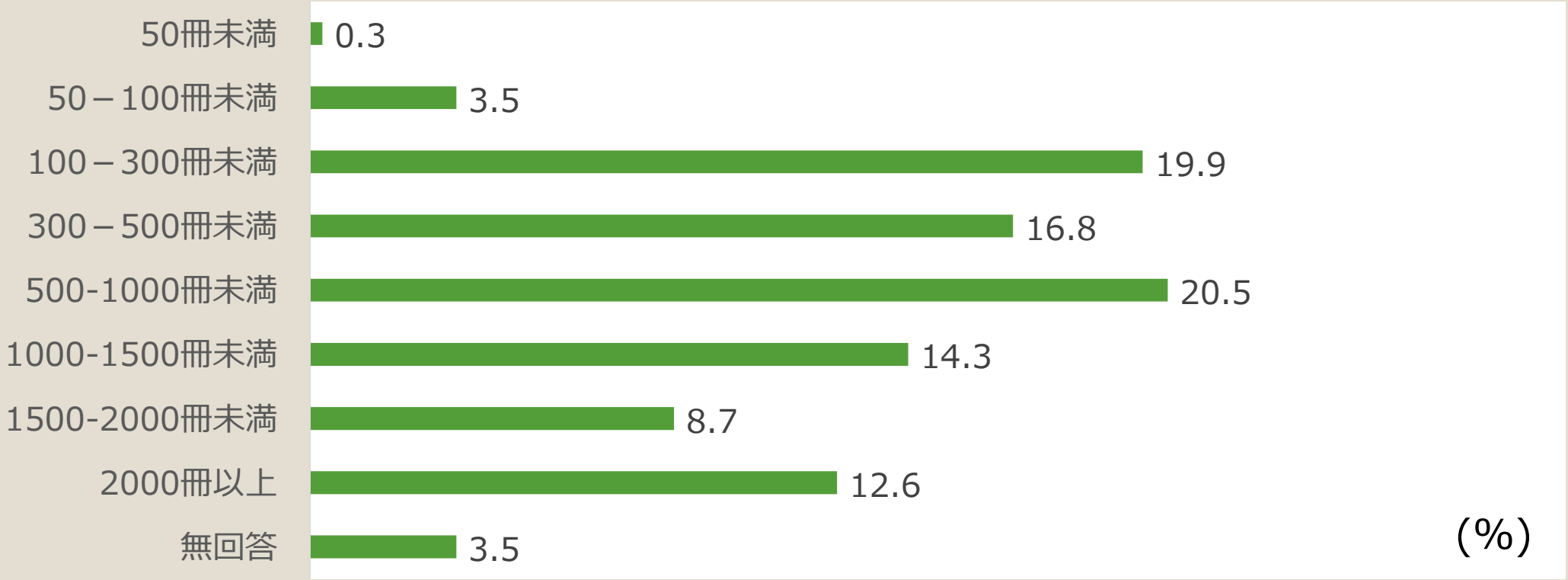
施設形態	認可保育所	幼稚園	認定こども園	その他	無答	合計
回答数（%）	611 (58.6%)	301 (28.9%)	80 (7.7%)	29 (2.8%)	21 (2.0%)	1042

施設形態	認可保育所	幼稚園	認定こども園	その他
設立年数（年）	36.37	56.31	41.13	23.94

施設形態	認可保育所	幼稚園	認定こども園	その他
平均園児数（人）	93.15	119.13	132.23	49.78

２． 調査結果の報告：②調査結果のポイント

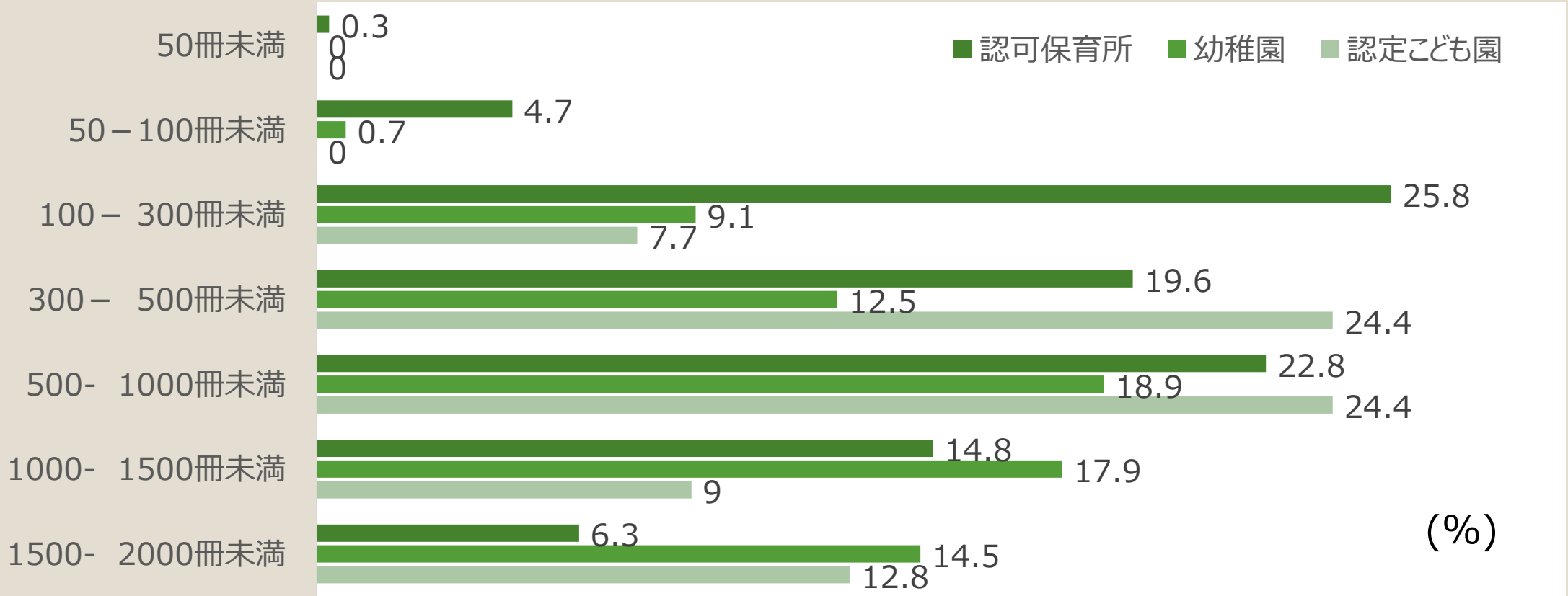
Q 園で所有している「絵本」のおおよその冊数を教えてください。（単一回答）



- **参考値：小学校では1校あたり平均10,335冊、中学校では11,579冊**
  2019年度学校図書館調査報告（全国SLA研究調査部）

２． 調査結果の報告：②調査結果のポイント

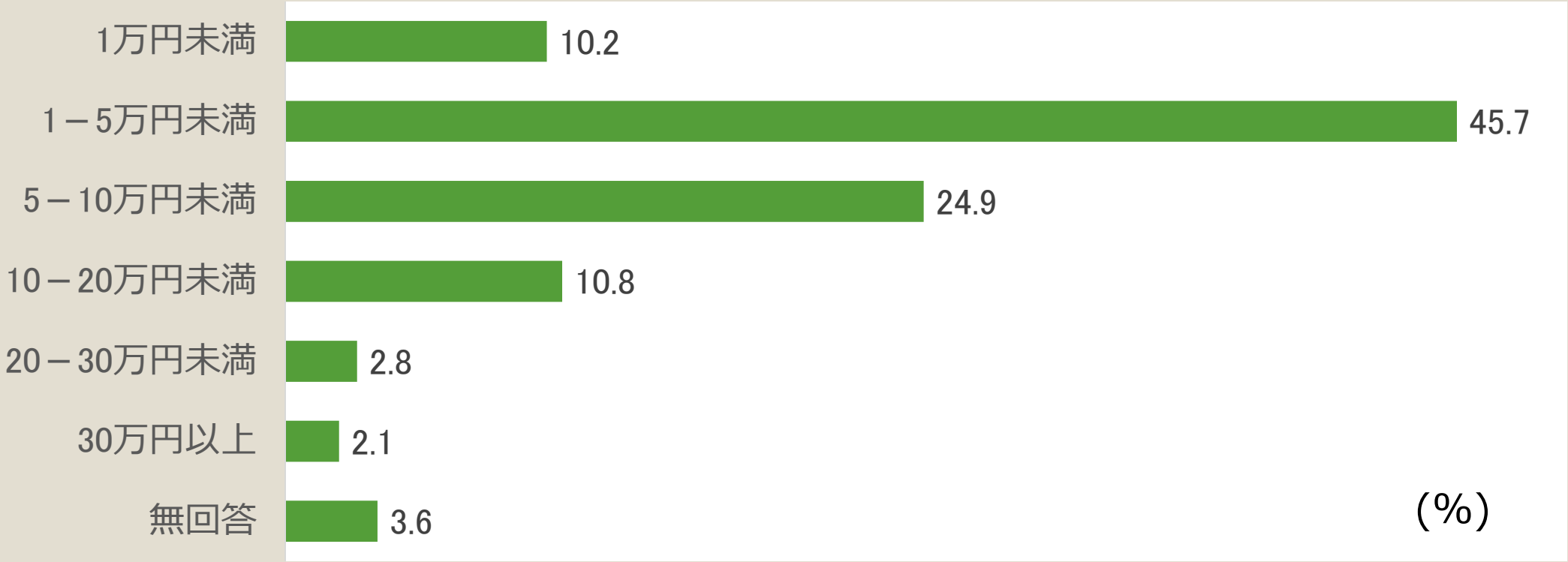
Q 園で所有している「絵本」のおおよその冊数を教えてください。（施設形態別）



- **300冊未満**と回答があったのは、**認可保育所では30.8%**であったのに対して、**幼稚園では9.8%**、**認定こども園では7.7%**であり、施設形態によって蔵書数に差が見られた。

２． 調査結果の報告：②調査結果のポイント

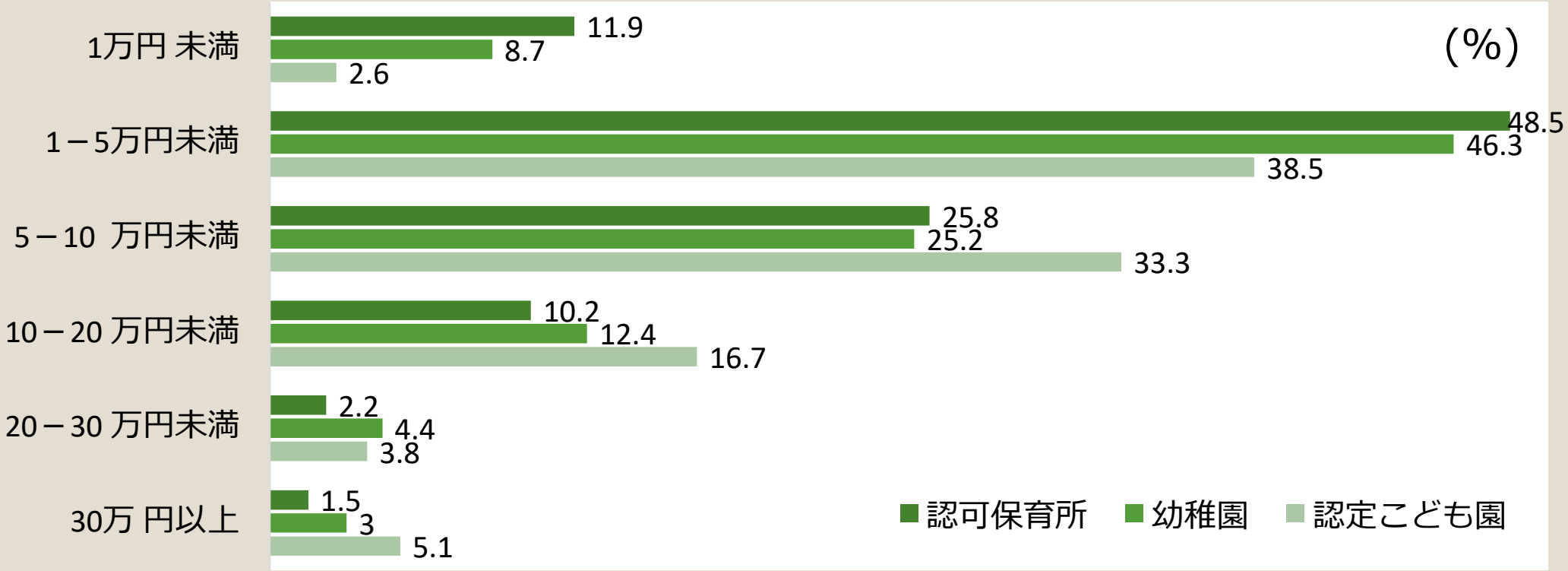
Q 1年間の「絵本」の平均購入予算を教えてください。（単一回答）



- 参考値：**小学校では平均49.8万円、 中学校では58.7万円**
  2019年度学校図書館調査報告（全国SLA研究調査部）

２．調査結果の報告：②調査結果のポイント

Q 1年間の「絵本」の平均購入予算を教えてください。（単一回答）



- 年間予算が5万円未満の施設は
  認可保育所で60.4%、幼稚園で55.0%、認定こども園で41.1%となっていた

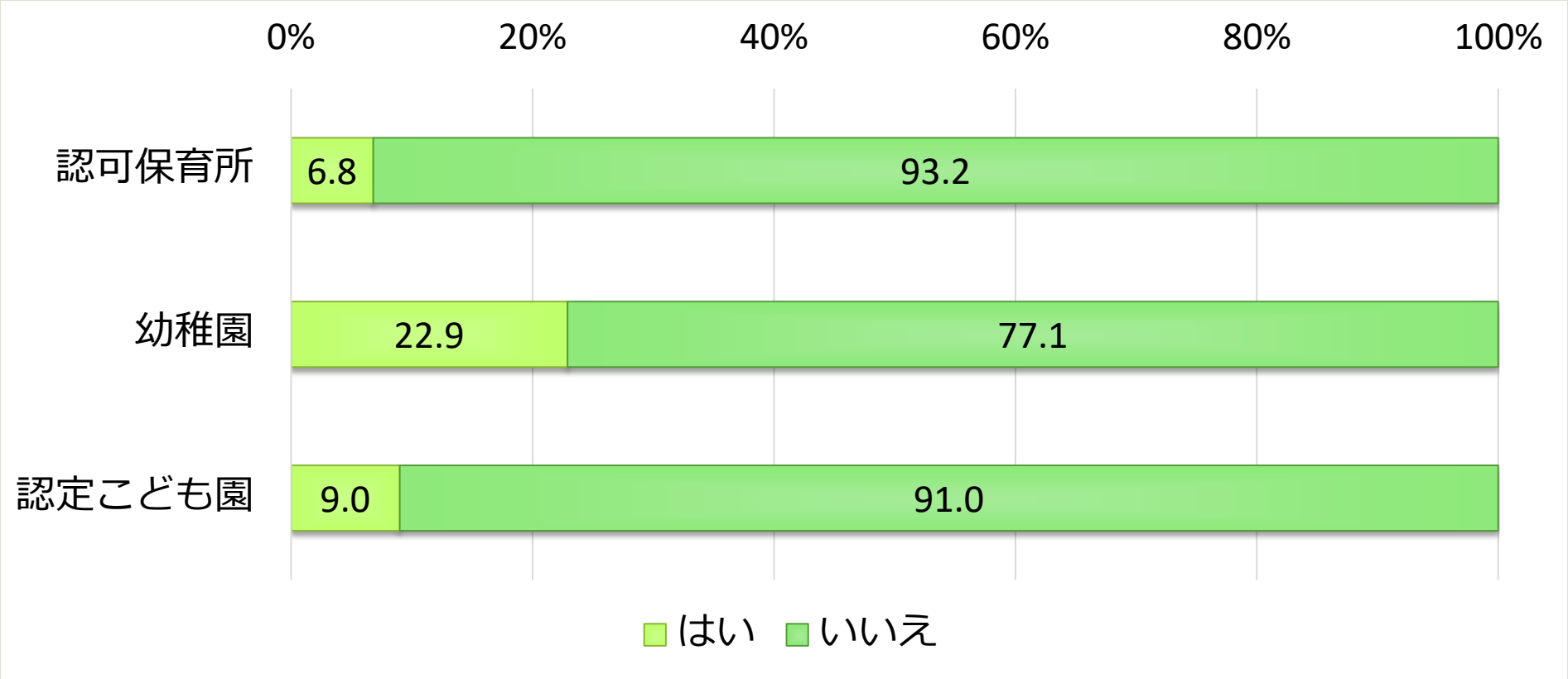
２．調査結果の報告：蔵書数･予算の概算と施設による比較

	1施設あたりの子ども人数（単位：人）	1施設あたりの平均蔵書数（単位：冊）	子ども一人あたりの平均蔵書数（単位：冊）	1施設あたりの年間予算の平均（単位：円）	子ども一人あたりの年間予算の平均（単位：円）
認可保育所	93.2	718	7.7	59,055	615
幼稚園	119.1	1,465	12.3	71,661	583
認定こども園	132.2	1,311	9.9	76,012	641
小学校	322.7	10,335	32.0	498,000	1,543
中学校	314.8	11,579	36.8	587,000	1,865

※1 小学校・中学校の1施設あたり人数は学校基本調査（令和元年度）における児童・生徒数÷学校数で概算
※2 小学校・中学校の子ども一人あたり平均蔵書数・年間予算の平均値は、全国学校図書館協議会（2019）調査結果における1校あたりの蔵書数および1校あたりの年間予算を、※1で概算した1校あたりの児童・生徒数で割ったもの
※3 認可保育所、幼稚園、認定こども園における蔵書数および子ども一人あたりの平均蔵書数は以下の方法で算出した概算値である：
蔵書数概算方法…「50冊未満」を25冊、「50-100冊未満」を75冊、「100-300冊未満」を150冊、「300-500冊未満」を400冊、「500-1000冊未満」を750冊、「1000-1500冊未満」を1250冊、「1500-2000冊未満」を1750冊、「2000冊以上」については具体的な数値の記入がない場合には2000冊、ある場合には記入された数値を用いた。子ども一人あたりの平均蔵書数計算方法…1施設あたりの平均蔵書数の概算値を、本調査において回答された施設人数の平均値で割ることで算出
※4 認可保育所、幼稚園、認定こども園における年間予算の平均および子ども一人あたりの年間予算の平均値は以下の方法で算出した概算値である：
1施設あたりの年間予算の平均値概算方法…「1万円未満」を5,000円、「1-5万円未満」を25,000円、「5-10万円未満」を75,000円、「10-20万円未満」を150,000円、「20-30万円未満」を250,000円、「30万円以上」を300,000円と置き換えて計算した。
子ども一人あたりの年間予算の平均値は、1施設当たりの年間予算の平均値を本調査において回答された施設人数の平均値で割ることで算出

２．調査結果の報告：②調査結果のポイント

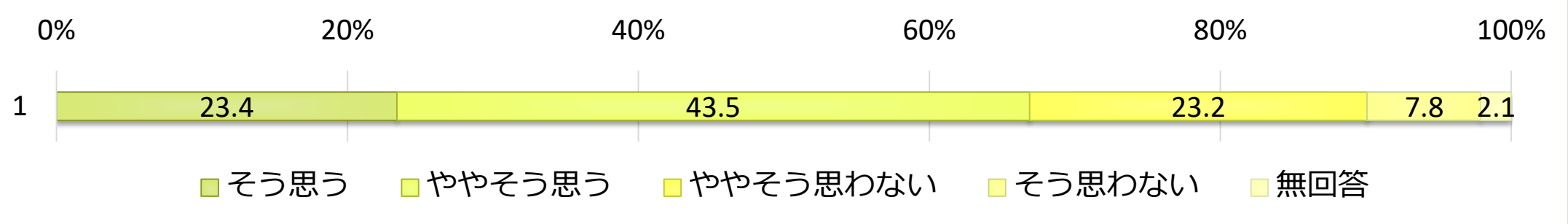
Q 園の所在する市町村・都道府県に「絵本」を購入するための補助金等はありますか？

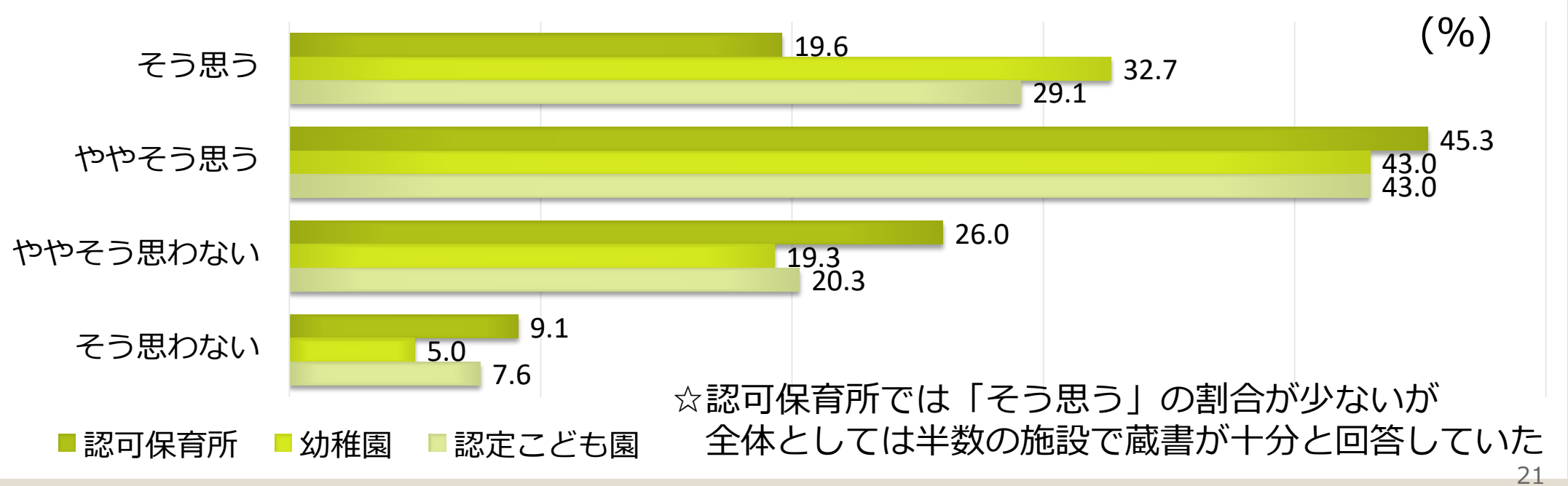


☆幼稚園について、自治体の補助金があるとする割合がやや高いが、
大部分の施設でそうした補助はないと回答している

２．調査結果の報告：②調査結果のポイント

Q 園における「絵本」の蔵書数は、十分だと思いますか。（単一回答）

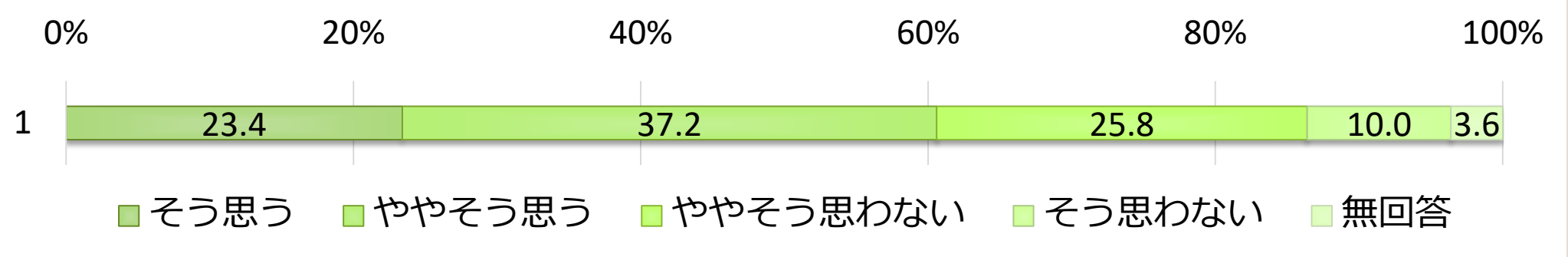


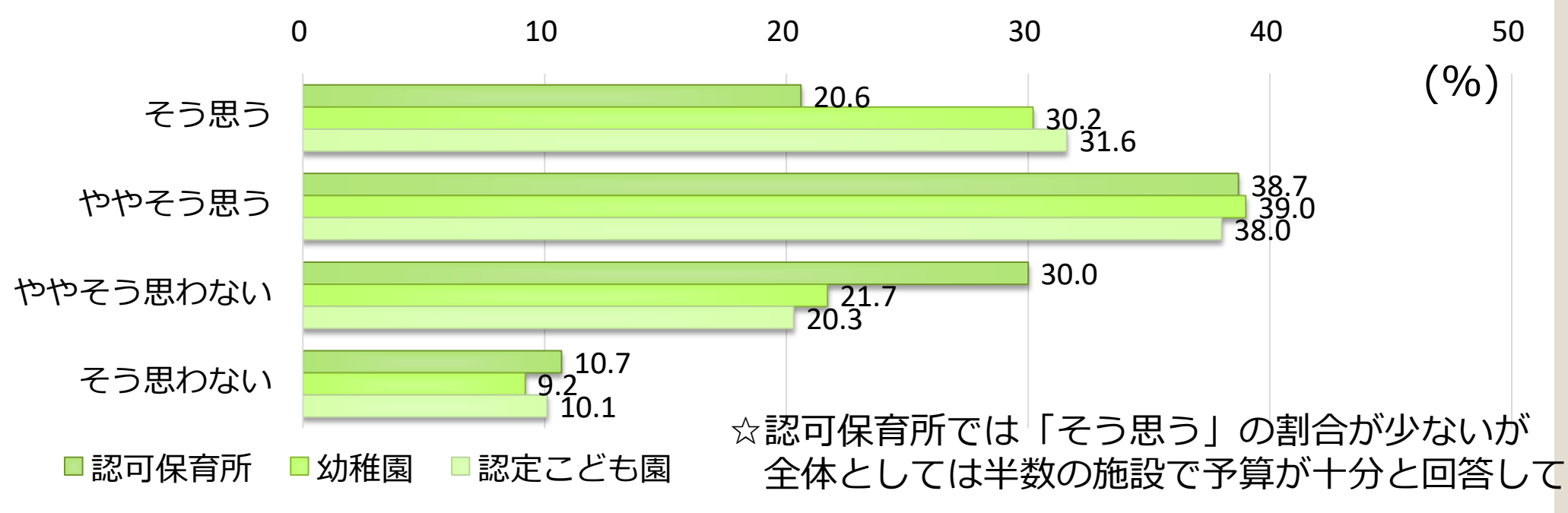


☆認可保育所では「そう思う」の割合が少ないが
全体としては半数の施設で蔵書が十分と回答していた

２．調査結果の報告：②調査結果のポイント

Q 今年度の「絵本」の購入予算は、十分だと思いますか。（単一回答）

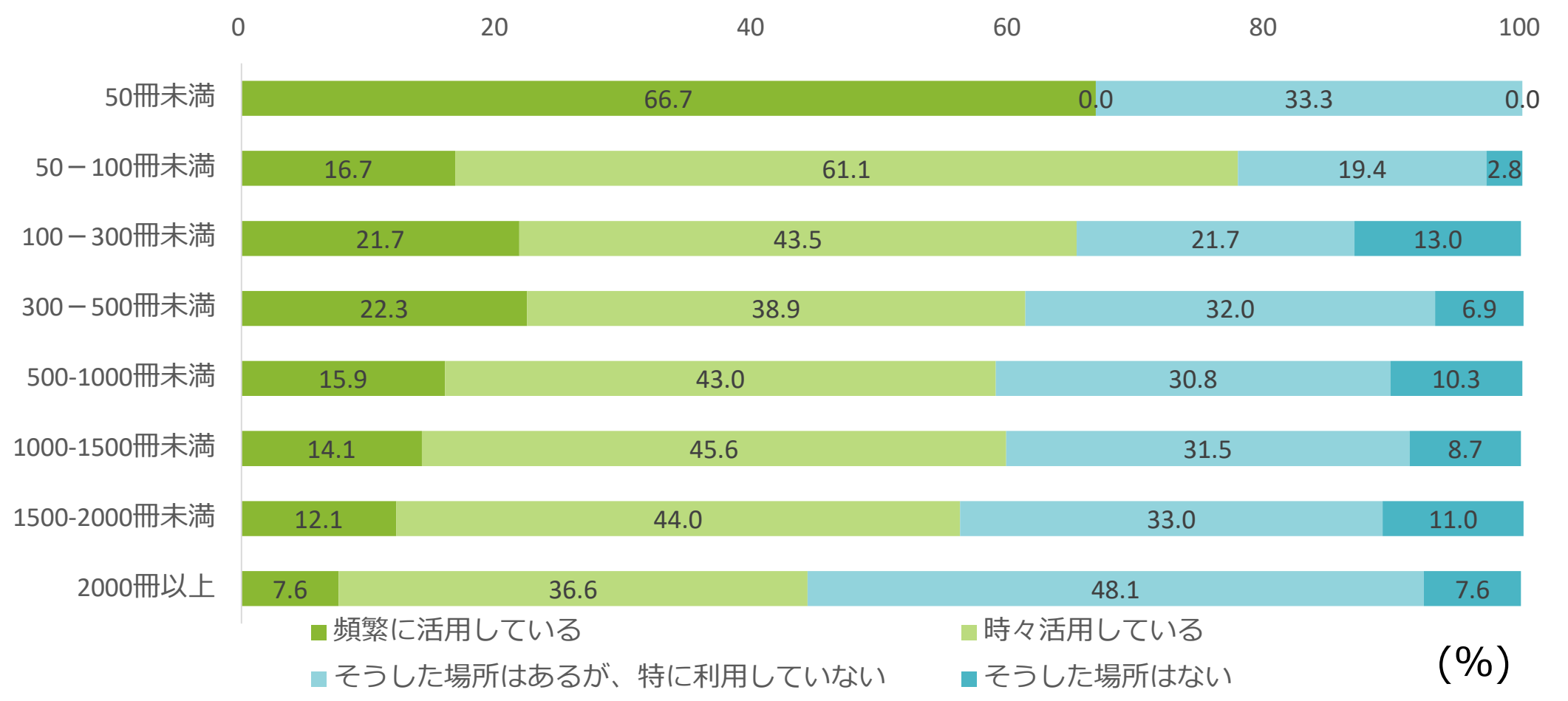




☆認可保育所では「そう思う」の割合が少ないが
全体としては半数の施設で予算が十分と回答していた

２．調査結果の報告：②調査結果のポイント

- 園の「蔵書数」と「近隣施設の活用頻度」との関連

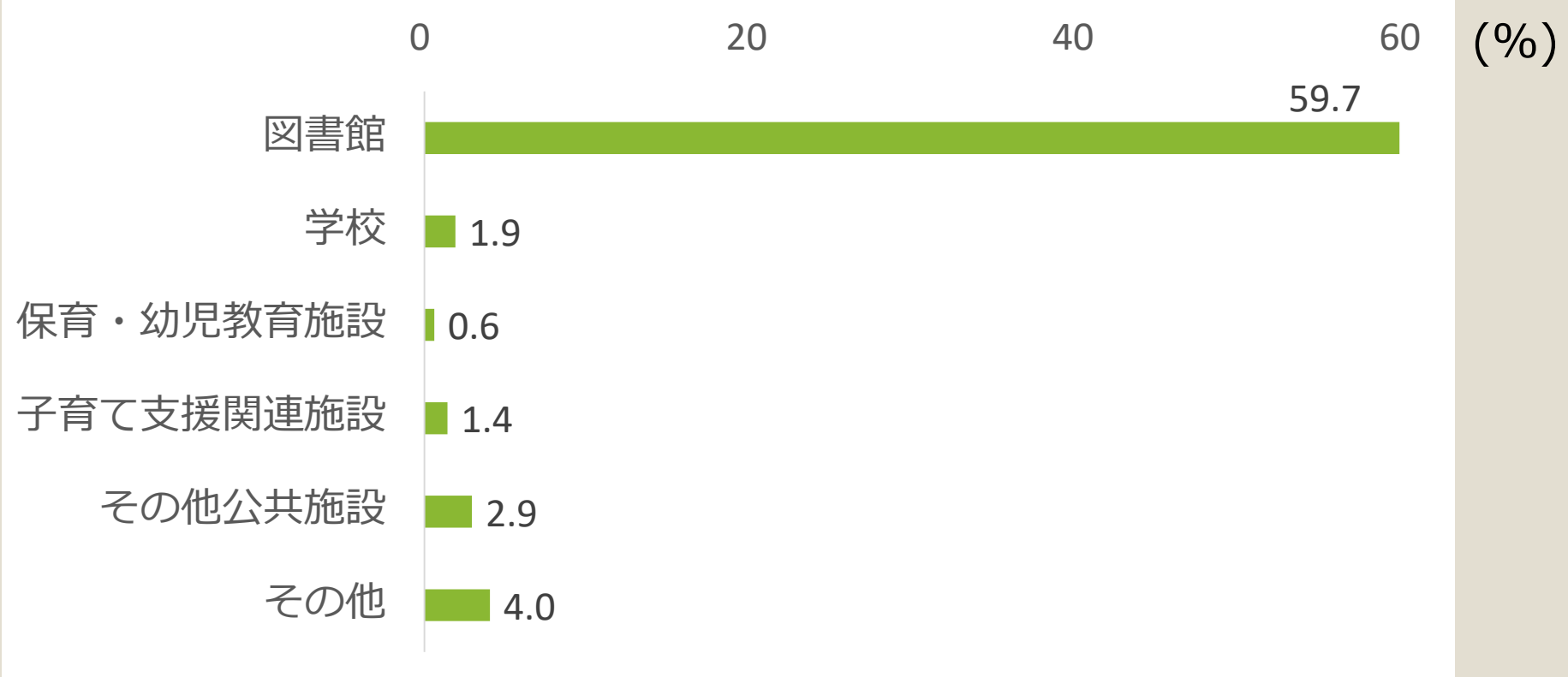


☆蔵書数が少ない施設ほど、近隣施設（図書館）の絵本を活用する頻度が高い

２． 調査結果の報告：②調査結果のポイント

- 活用されている近隣施設

Q **上記の質問で、活用していると回答した園に、それはどのような場所ですか。**



☆地域の図書館は、就学前の子どもたちの絵本・本環境として重要である

２． 調査結果の報告：③実践・政策への示唆

- 乳幼児期の子どもの育ちや発達、ならびに絵本・本を読む権利を意識して、園やクラスの絵本・本の環境構成を行っていく必要がある
  →蔵書数や予算が十分かどうかというところから
- 設立後間もない施設では特に絵本・本環境の拡充を意識する必要がある
  （絵本・本のための自治体の助成などが検討対象）
- 園の近くにある図書館等の施設も巻き込み、地域全体で、乳幼児期の子どもの絵本・本環境の充実を考えていく必要がある
- 園での絵本・本環境づくりに向けた研修の作成・実施に加えて、子ども自身が購入する絵本・本選びに参与する園ではどのような実践が行われているか事例を収集する必要がある

３． 今後の展望：①調査研究

- 就学前施設の各クラス、および家庭の絵本・本環境の実態と課題を把握するための調査を実施していく予定
- クラスの保育者を対象としたウェブ調査（2019年度中に実施予定）
  - 個々のクラスの絵本・本環境の実態や課題を、より詳しく聴取する
  - 学年・学齢による実態や課題も把握する
- 家庭における絵本・本環境調査（2020年度に実施予定）
  - 家庭での絵本・本環境の実態や課題を明らかにする

３．今後の展望：②実験研究

- ウェアラブル・アイトラッカー（視線計測装置）を用いて絵本の読み聞かせと、ナレーション・アニメーション動画視聴時の情報収集方略や相互作用の違いを研究

親子の視線同時計測は世界初の試み

- 実験１：
  - 保護者による読み聞かせ時と、タブレットにページが表示され、ナレーションが自動で流れる時の、視線行動や親子のやり取りの違いを比較
  - ５～６歳の親子30組を対象に実験を実施中
- 実験２：
  - 実験者による絵本読み聞かせ時と、動画視聴時の、視線行動の違いを比較
  - 5歳児30名を対象に実験計画中
- 脳活動計測（来年度以降実施予定）
  - 動画視聴時と絵本読み聞かせ時の脳波等の違いを計測

実験１の様子

３． 今後の展望：③事例研究

- 日本国内・海外における優れた絵本・本環境構築に向けた取り組みの事例収集・調査

1. **国内外の事例研究：**自治体や保育・幼児教育施設における、就学前の子どもの絵本・本環境の拡充に向けた取り組みを調査
   - 海外：現地研究者・専門家へのヒアリング・アンケート
   - 国内：各自治体における絵本・本購入のための助成制度や、図書館との連携に関する取り組みを文献やヒアリング調査を通じて検討

2. **子どもにとっての絵本・本の価値の変遷に関する文献調査：**
   - 子どもにとって「絵本・本」「絵本・本を読むこと」は、実践や理論を通じてどのように意味づけられ（歴史的変遷）、現在どのような意味づけがなされているのかについて、文献調査を実施（米国および日本の事例）